



環境報告書



2018

RUEHAUF



環境マネジメントシステム

ごあいさつ



代表取締役社長
昼間 弘康

2018年度版の環境報告書をお届けいたします。
弊社の環境マネジメントシステムをご紹介しますと共に、この一年間に取り組んだ環境活動の成果をご報告させていただきます。
弊社は、1963年(昭和38年)創業以来、輸送用機器の生産を通じて、先進の技術で物流の効率化に挑戦し続けてまいりました。地球環境保全への関心が高まる中、2001年(平成13年)に環境負荷の低減をめざしISO14001の認証取得活動を開始。現在では当社ならびにグループの全生産拠点がISO14001の認証を取得

しております。
近年では、今までの環境の枠組みを超えて、CSRや持続可能な開発への取り組みなど、社会の中で企業がどのような役割を担い、価値を提供できるかが問われております。
我々の生み出す製品がお客様の課題解決のお役に立つこと、そして、一企業として地球環境という未来につながる大きな視点から評価にさらされ、企業は信頼を得て社会に認められることとなります。
フルハーフのシンボルとして大きなイベントに育てていただきました“ばら観賞会”は、地域の皆様に愛され、30回目を開催することができました。大勢の皆様にご来場いただき厚く御礼申し上げます。
今年、創立55年を迎える日本フルハーフは、永遠に続く物流の新たな課題解決に向けて、これからもお客様の良き相談相手として、製品開発、生産、そして環境活動においても社員一同チャレンジを続けて参ります。

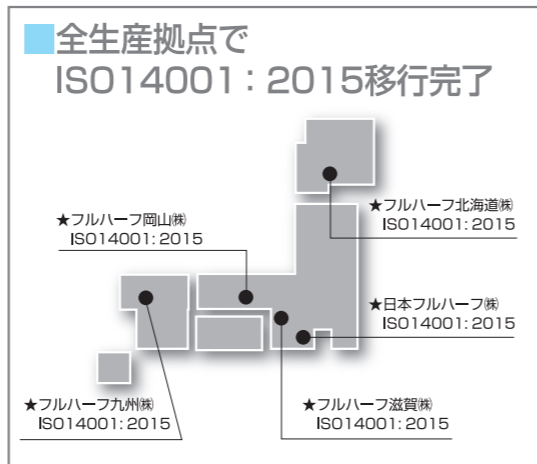
企業理念

1. 高い良識を持ち、地球環境との調和と誠実な企業活動を通じて社会に貢献すると共に、社会から信頼される良き企業市民を目指す。
2. 特長ある輸送機器メーカーとして、有用な機能商品やサービスを提供し、変化するお客様の課題解決に貢献する。
3. 従業員個人の創造力とチームワークを最大限に高め、達成感と満足に繋がる自由闊達でチャレンジ精神あふれた企業風土をつくる。
4. 進化する高効率経営で、経営環境変化への対応力を高め、長期安定的な成長と企業価値向上を持続する。

環境方針

日本フルハーフは、地球環境に優しい技術を常に追求すると共に、環境保全を十分に意識したトレーラ、バン型ボデー等の生産活動を通じて、環境保護に率先して取り組み、豊かな社会の実現、維持に貢献します。

1. **環境に優しい製品の提供**
生産活動、ならびに製品の提供においては、その環境課題に積極的に、且つ継続的改善をもって取り組むと共に、環境負荷の低減をめざし汚染の予防に取り組みます。
2. **環境保全の推進**
全ての事業活動において、法規制の順守はもとより、社会の要求事項にも積極的に応え、環境保全活動に取り組みます。
3. **環境を配慮した事業活動の実現**
全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、グリーン調達、リサイクルに組み込み、さらには、これらを見直すことにより、かぎりある地球資源の保護に取り組みます。
4. **より良い環境活動の実現**
日本フルハーフ、及び関連会社全従業員が、地球環境保護の大切さを認識・自覚するよう、啓蒙活動に取り組みます。また、社会との調和・共栄をめざし、事業活動以外での環境活動にも取り組みます。
5. **環境方針の公開**
本環境方針は、社外の要求、その他の必要に応じて一般に公開します。



環境保全の取組み

地球温暖化ガス

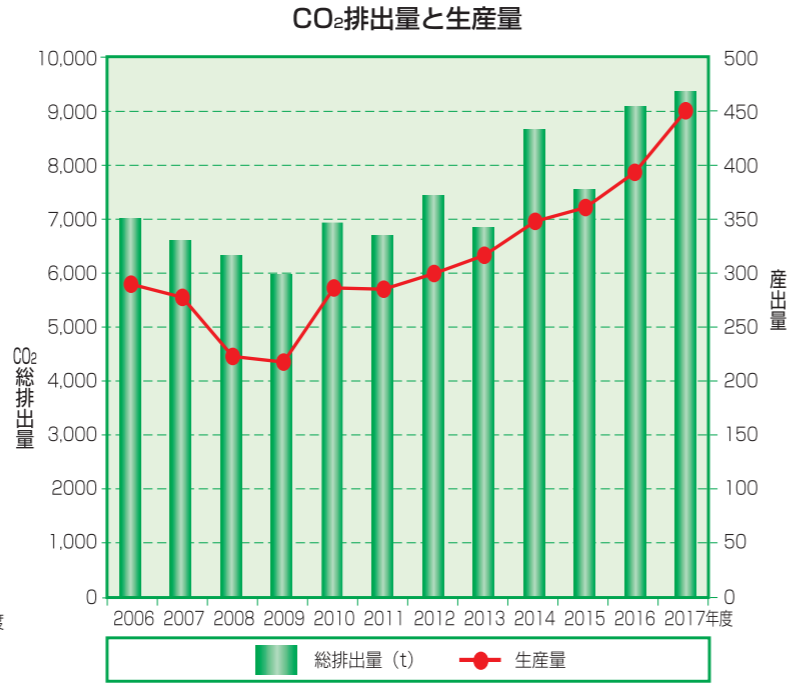
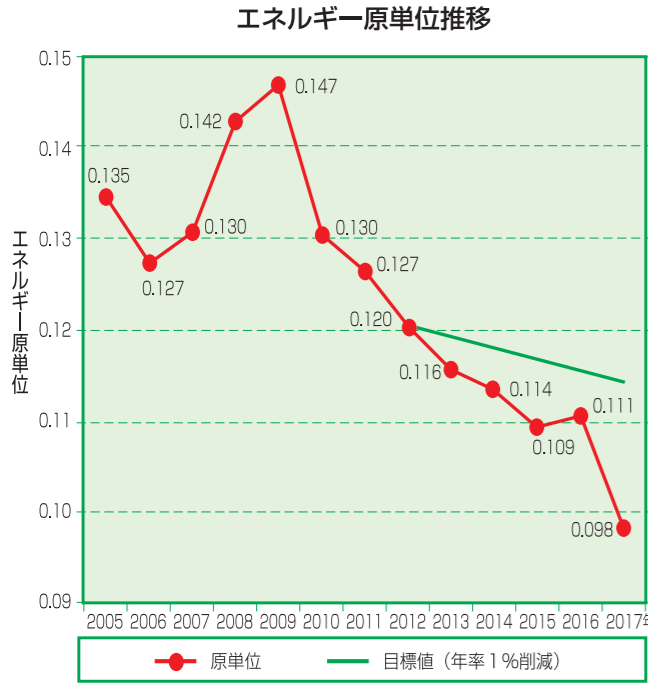
エネルギー原単位については年1%以上を削減する目標を立て省エネ活動や設備計画を進めております。

こうした中で、照明のLED化や設備の集約などが大きな効果を上げてきています。設備についても、省エネトップランナー規格の積極的な採用を進めております。

また、省エネ活動のツールとして、厚木工場を中心

に、電力の見える化を進めており省エネ活動に役立てております。

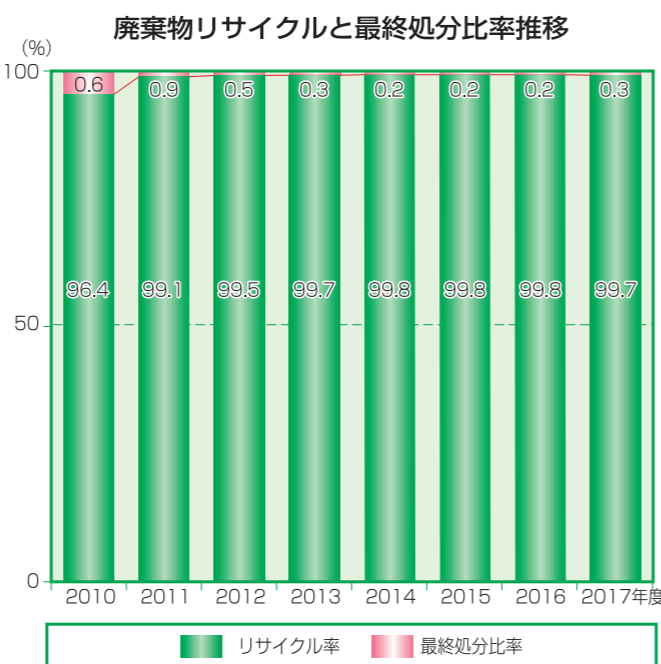
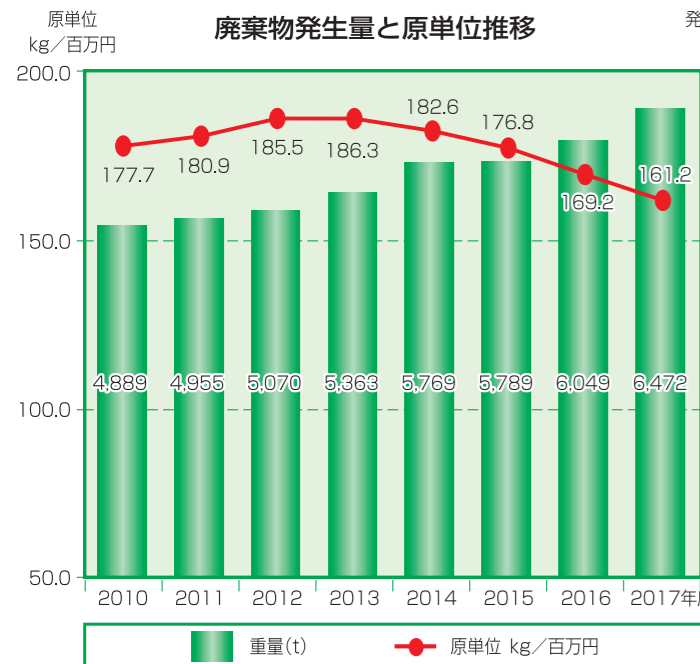
CO₂排出量については、生産量の増加により、CO₂排出量は増加の傾向にあります。CO₂削減のため、運搬車両の電動化を進めると共に工場の使用燃料をLPGやプロパンガスから、より排出係数の少ない都市ガスへ切替を進めてきております。



廃棄物

2017年度における本店・厚木工場の廃棄物発生量は、6,472トンとなり、前年度比較で約423トンの増加になりましたが、産出高あたりの発生量におい

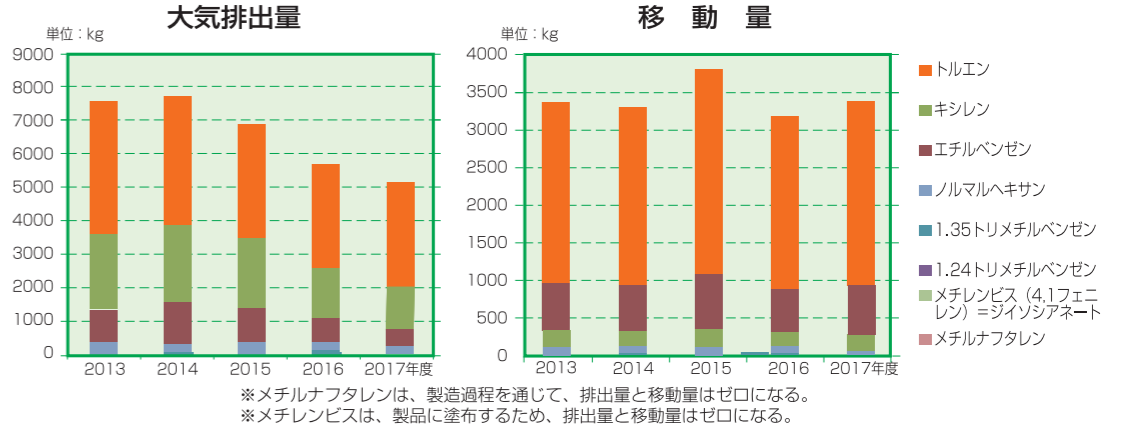
ては、4.7%の減少になりました。リサイクル率では、99.7%となり、前年度比較で0.1%減少になりました。



化学物質管理

2017年度のPRTR対象化学物質の取扱いは14物質となりました。そのうち1トン以上(特定第一種化学物質は0.5トン以上)となり、報告対象となった化学物質は7物質となりました。

2014年度よりエチルベンゼンについて同物質を含まない塗料への代替などの実施に伴い、大気排出量が2015年度比較で8,031kg減少に至りました。エチルベンゼンについては引き続き同物質を含まない塗料への代替を進めております。今後も継続して上記を含む化学物質の排出・移動量削減活動を含め、環境負荷低減に努めて参ります。



環境会計報告

分類	取組内容	15年度	16年度	17年度
1)事業エリア内で生じるコスト	建設投資・修繕コスト			
	大気汚染防止コスト	2,421	2,421	4,604
	土壌汚染防止コスト	1,787	1,246	0
	水質汚染防止コスト	2,048	1,972	2,142
	地球温暖化防止及び省エネルギーコスト	11,380	8,900	9,222
	資源循環コスト	0	0	0
	その他の環境投資	1,352	3,034	1,013
	修繕コスト	0	0	0
	廃棄物処理費用			
	産業廃棄物処理支払	60,695	65,862	77,532
リサイクルセンター費用				
労務費・経費	35,973	31,852	42,741	
2)管理活動におけるコスト	その他の環境投資	6,076	5,688	4,184
	事務局運営費			
3)社会活動におけるコスト	環境審査費用			
	ISO14001維持費用	13,770	11,559	15,553
4)環境損傷に対するコスト	ばら育成費	14,075	12,460	17,636
	ばら育成労務費・経費			
5)研究開発活動におけるコスト	その他環境費用			
	リスクマネジメント費用	0	0	0
	公害修復・裁判費用	0	0	0
計		149,577	144,994	174,627

トピックス

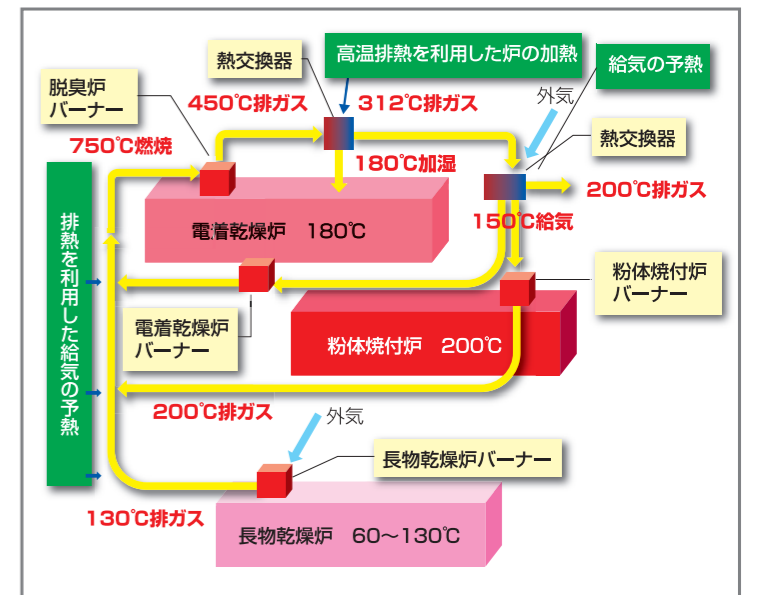
2015年より始まった省エネ法に基づく事業者クラス分制度において、当社は、3年連続のSクラス評価を受けることが出来ました。

エネルギー原単位削減の成果が評価されたものと思われます。

工場・事業場における省エネ法定期報告(2017年度提出分)に基づく事業者クラス分け評価の結果

標準産業分類 中分類	特定事業者番号	主たる事業所の所在地	事業者等名	省エネ評価		
				提出年度	2015	2016
※本制度における評価は、特定事業者の工場・事業場におけるエネルギーの使用状況等に基づいた評価であり、必ずしも各業種におけるエネルギー使用状況等を反映したものではありません。						
31輸送用機械器具製造業	0498431	神奈川県	日本フルハーブ株式会社	★	★	★

また設備では、分散していた塗装乾燥炉の集約と乾燥炉相互の排熱利用により燃料の大幅削減を行う事ができました。



環境に優しい製品への取り組み

■電気式中型温度管理車

「東京モーターショー2017」参考出品

●電気式により省エネを重視した温度管理車を提案。

日夜、タイムスケジュールが厳しい運行の中でドライバーがより安全な運転に集中できるように、荷室の温度管理に新たな提案。



■新規格連結全長21mフルトレーラの開発

日本の物流業界の課題解決に貢献するフルトレーラを開発。

- ◆ドライバー不足の解消、労働環境の改善
- ◆スピード配送のニーズに応えるための幹線輸送の効率化
- ◆配送によるCO2排出量の削減

トレーラの単純な巨大化ではなく、積載効率とドライバーの操作性の向上などの要望に応えるために、営業・開発・製造の協力、チーム日軽金の「ツナガリ」、お客様との「ツナガリ」により生まれた製品。

●電気式冷凍機システム

エンジン低回転時の能力低下を抑制…冷却性能安定

冷凍機運転にかかる燃料を削減…省エネ性の向上

ドア開放時冷凍機停止機能付き…冷気の流出防止、結露・霜付きを防止

●電気式床加温装置

庫内隅々まで均一に温まる…保温性能安定

中仕切りの位置をセンサーで把握することにより加温範囲を自動設定し必要以上の加温を防止…省エネに貢献

■製品への取り組み

製品における温暖化対策や化学物質の環境への影響を低減する取り組みを行っています。

●温暖化対策

自然林から伐採される樹木の使用率を下げるため、床材やドア材を代替材に切り替える検討を進めています。

●オゾン層破壊対策

SWPバンの断熱材に含まれるフロンは、2005年3月までに代替原料の発泡剤への切り替えを完了しました。

●環境配慮対策

鉛・水銀・六価クロム・カドミウムなど、環境負荷物質と呼ばれる4物質の製品への使用削減について、自主目標を設定し、目標を達成しました。

FRUEHAUF

環境に優しい + 3つの追加要件!

車体製品部材のリサイクル可能率 95%以上

車体工業会における環境負荷物質自主取り組み基準を満たしている。

ISO14001やエコアクション21など第3者機関による環境認証取得工場で生産されている

CSR社会貢献活動

ばら観賞会

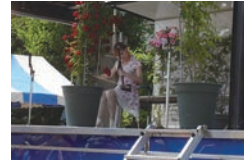
2017年5月21日(日)、日本フルハーフ本店・厚木工場において、「第30回ばら観賞会」を開催致しました。

1984年3月「味気ない工場をバラ園にし、働く従業員に潤いを」という思いから、雪の降る中、有志で植栽を始めて早30年以上が経ちました。職人の手を借りずに、社員が心をこめて育て、今では約400種類1000本のバラが工場全体を包み込むように様々な色合いで咲き誇っています。

今回のばら観賞会は、開催30回を記念し、従来の苗木販売などのイベントに加え、演奏会(弊社パートナー企業であるソソリン集団(中国法人)従業員による胡弓演奏会、弊社従業員と仲間達によ

るバイオリン四重奏)を開催し、例年以上にバラとともに楽しめる優雅な時間となりました。

また、ばら観賞会前日には、厚木市内在籍の中高生にお集まり頂き、会場内に飾るバラアレンジメント制作体験イベントを初めて開催し、地域との交流を深める機会となりました。



厚木工場近隣清掃活動



厚木工場では、毎月最終金曜日を「ボランティアフライデー」と称し、CSR地域貢献活動の一環として、工場近隣の清掃活動を行なっております。

清掃活動を通じて、近隣企業・地域住民の皆様とのコミュニケーションの活性化を図りながら、「社会・環境への貢献」「周辺地域の美化」「社員のCSRへの参加意識向上」を目的として取り組んでいます。

インターンシップの取り組み

厚木工場ではインターンシップの一環として、毎年近隣の厚木市立藤塚中学校より職場体験学習の受入れを行っています。2017年度は4名の生徒さんを迎え、3日間の日程で工具の使い方から機械加工・溶接作業等の体験を通じ、トラックを製造する過程において、製品が出来上がるまでに多くの人が関わっていることや工場の安全、製品の品質の大切さを学んで頂きました。

また実際に簡単な製品製作を行うことで、ものづくりの楽しさや大変さも肌で感じて頂くことが出来ました。

従業員が講師となり自らが仕事をする上で大切にしていることを伝え、生徒さんにトラックへの興味と将来への夢を持って頂ける

ような機会になればと考えております。

短期間の実習では御座いますが、生徒さんの心に刻みこまれるような体験となることを期待し、今後もこの交流を通じて地域貢献を続けて行きたいと考えております。



製品／商品紹介



バントラック



ウィングルーフ



温度管理車



トレーラ

会社概要

商号 日本フルハーフ株式会社
NIPPON FRUEHAUF COMPANY, LTD
本店・厚木工場 〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原3034
TEL 046-285-3111 / FAX 046-286-8800
東京本社 〒108-0075 東京都港区港南1-6-34
品川イーストビル7F
TEL 03-5715-0150 / FAX 03-5715-0151

設立 1963年10月19日
資本金 10億250万円
事業内容 1. 被牽引車、各種自動車用車体、各種コンテナ及び関連製品の製造・販売
2. 前号各製品の賃貸及び古物販売
製造・販売品目 各種バンボデー、各種トレーラ、各種コンテナ等の製造・販売